

団塊の世代による

旅行 ニーズへの対応策

糠谷 和弘

一般社団法人日本介護旅行サポーターズ協会 代表理事
(株)エルダーテイメント・ジャパン 代表取締役
株式会社スターコンサルティンググループ 代表取締役

一般社団法人日本介護旅行サポーターズ協会 代表理事
 株式会社エルダータイムメント・ジャパン 代表取締役
 株式会社スターコンサルティンググループ 代表取締役

糠谷 和弘 (ぬかやかずひろ)

東京都出身。AB型。株式会社JTBを経て、株式会社船井総合研究所に入社。平成12年（介護保険施行当初）から、介護サービスに特化した部署を立ち上げ、統括責任者として全国の事業所をサポート。2012年に介護事業に特化したコンサルティング会社を設立、自らも全国各地で経営指導、講演や経営指導を行う。コンサルティング実績500法人以上。講演実績750回以上。一般社団法人日本ケアビジネス協同組合理事（外国人管理団体・登録支援機関）、一般社団法人全国介護事業者連盟参与、一般社団法人日本デイサービス協会理事。厚労省、経産省事業実績多数。

★主なサポート内容

<p>新規開設 短期集客支援</p> <p>介護事業全般の開設を支援</p> 	<p>稼働率向上 収支改善支援</p> <p>通所、有老特養、ショート等の稼働率向上</p> 	<p>評価制度 キャリアパス導入</p> <p>頑張ったら報われる仕組みに！</p> 	<p>採用・定着 早期育成支援</p> <p>人が集まり、定着し、育つ法人に！</p> 
---	---	--	--

株式会社スターコンサルティンググループの本

Amazon ジャンルランク 1位！

累計 8千部！

Amazon ジャンルランク 1位！

Disney 流！ みんなを幸せにする「最高のスタッフ」の育て方

介護施設長 & リーダーの教科書

Amazon ジャンルランク 1位！

Amazon ジャンルランク 1位！

書籍累計52000部突破！

【主なメディア出演実績】

●ガイアの夜明け等に出演



●連載多数



共著 編著



団塊の世代による 旅行ニーズへの対応策

仮説 なぜ要介護者の旅行が普及しないのか？

介護事業および介護事業コンサルタントとしてわかったこと

調査 要介護高齢者に対する
旅行支援の在り方に関する調査研究事業

実証 旅行特化型通所事業および旅行介助士養成
活動状況

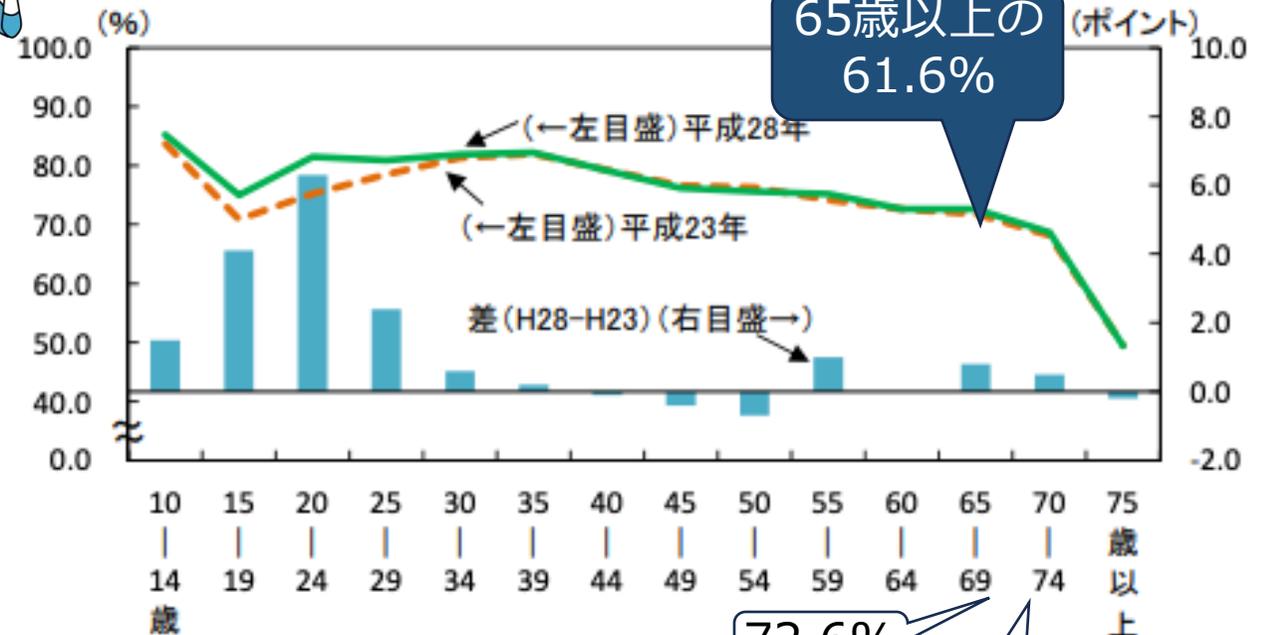
もう1つの 2025年問題

日本において人口ボリュームの大きい**団塊の世代（1947～1949年生まれ）の全員が75歳以上の後期高齢者になる**ことで発生するとされる、社会的・経済的な問題のこと



- 1.医療・介護の負担増
- 2.社会保障制度の圧迫
- 3.労働力不足の深刻化
- 4.高齢者の単身世帯の増加
- 5.地域・インフラの維持困難
- 6.旅行・行楽者の激減

図5-1 「旅行・行楽」の年齢階級別行動者率(平成23年, 28年)



総務省統計局 平成28年社会生活基本調査

72.6%

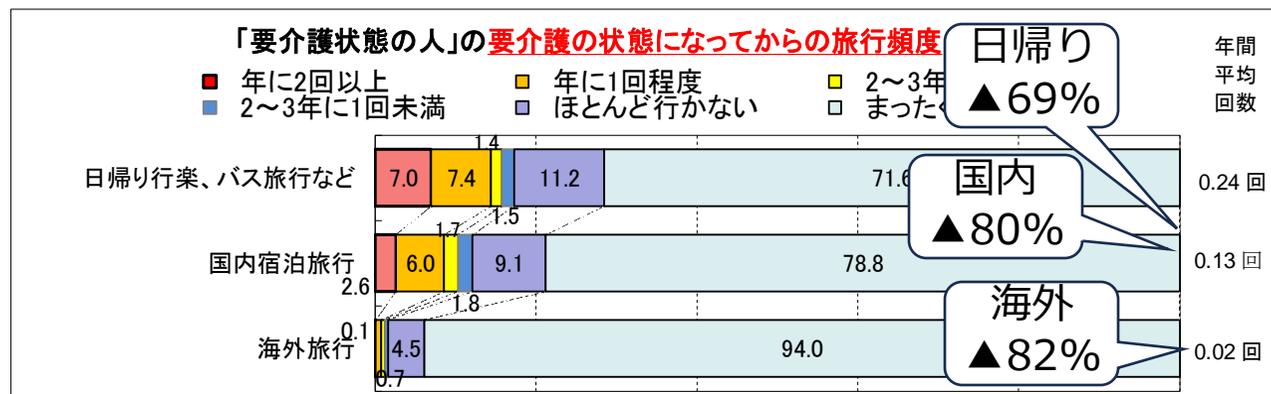
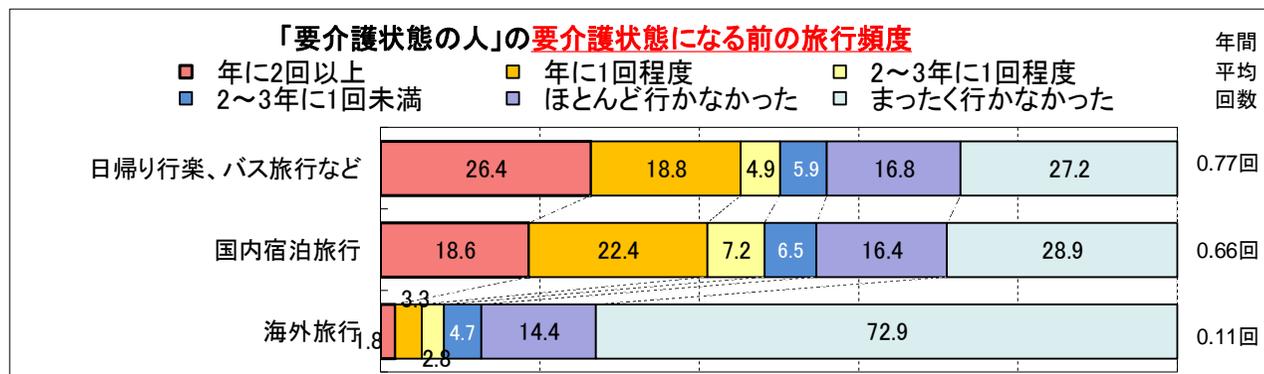
68.7%

49.4%

特に要介護状態になると大幅に減少

要介護状態になると、「日帰り」「国内旅行」「海外旅行」とともに頻度が大幅に減少する。
特に遠出となる「国内旅行」「海外旅行」は80%も減少！

図表 3-27 要介護者の要介護状態になる前後の旅行頻度の変化 (%) n=5, 109

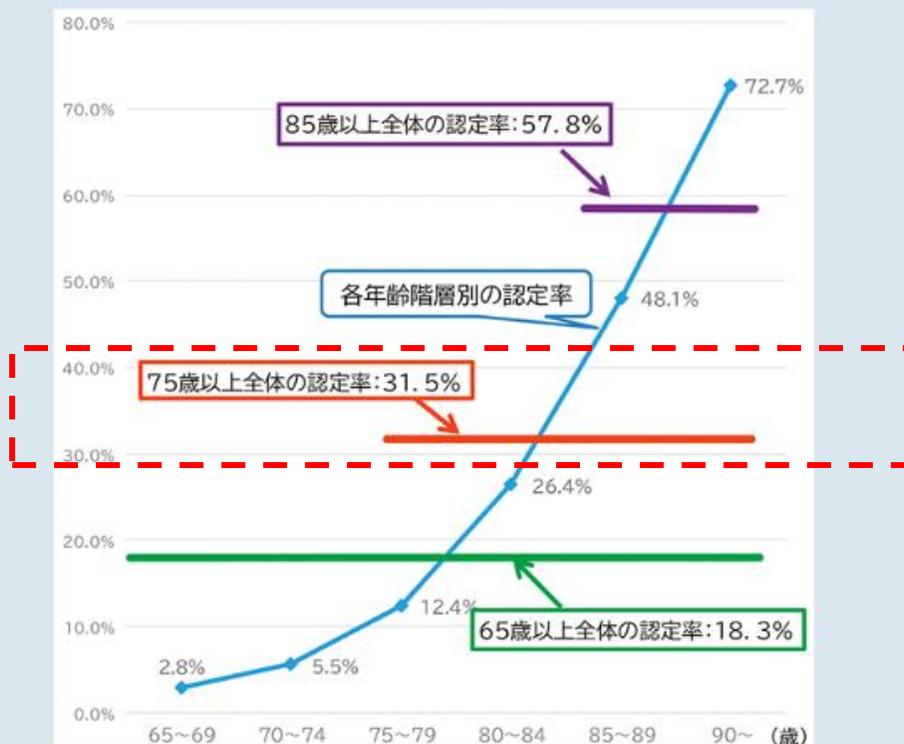


後期高齢者の要介護認定率は31.5%

75歳以上の後期高齢者のうち、要介護認定、要支援認定を受けている方の割合は31.5%
2025年以降、世代人口の最も大きい団塊の世代の旅行離れが促進する！



図表 2-1-4 年齢階級別の要介護認定率



資料：厚生労働省老健局介護保険計画課「介護保険事業状況報告」、総務省統計局「人口推計」より厚生労働省老健局総務課において作成。

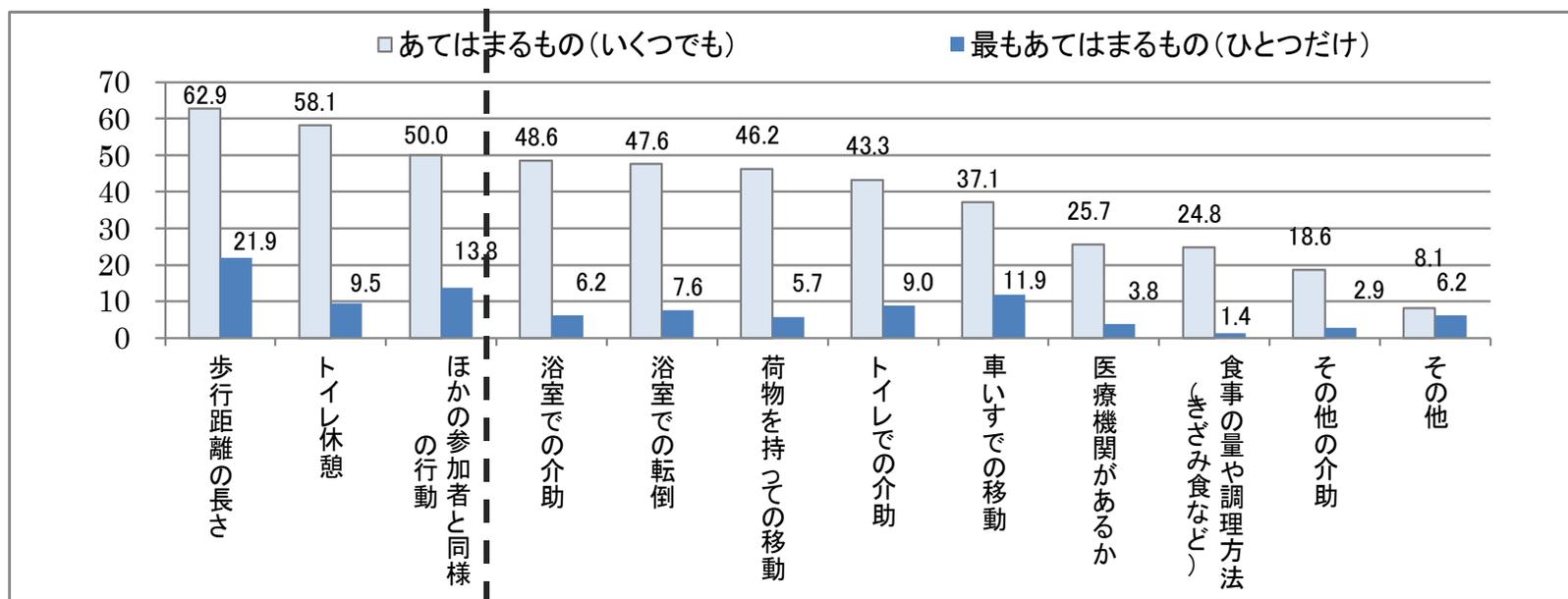
(注) 2020年9月末の要介護認定者数及び2020年10月1日の人口推計（平成27（2015）年国勢調査を基準とする推計値）から作成。

要介護者の旅行を妨げるものは不安

旅行を企画する要介護高齢者の6割以上が「歩行距離」を不安視している
不安のほとんどは「コースの配慮」と「人的支援」で解決できる！

図表 3-35 国内宿泊旅行に行く際に不安に思うこと

(%) n=86



観光庁平成26年度「ユニバーサルツーリズム促進事業報告書」より抜粋

コースの配慮

人的支援 (介助)

なぜ、要介護者の旅行が普及しないか？

要介護者向けの旅行が普及しない理由

理由	解決策
身体的理由	<ul style="list-style-type: none">✓ 足腰が弱くなった✓ 食事、入浴、トイレも不安
心理的不安	<ul style="list-style-type: none">✓ 旅行先で何かあったらどうしよう✓ 周囲に迷惑をかけるのではないか
高い旅行代金	<ul style="list-style-type: none">✓ 介助者の旅費の旅費まで払うと高くなる✓ 有償介助者なら、さらにサポート料がかかる
介助者との相性	<ul style="list-style-type: none">✓ 家族は不安だし、お互いにストレス✓ 有料でサポーターに頼んでも、相性に不安がある
旅行会社の低収益と手間	<ul style="list-style-type: none">✓ いまはインバウンドの方が儲かる✓ 手間ばかりかかって薄利な旅行はやりたくない

相性が悪い人と旅行したくない

仮説 要介護者が旅行をするためには

要介護者向けの旅行を普及するための解決策

理由	解決策
身体的理由	<ul style="list-style-type: none">✓ リハビリ（準備）をしっかりと行う✓ 要介護者向けのゆったりとした旅行を企画
心理的不安	<ul style="list-style-type: none">✓ 同じ悩みを持つ仲間と<u>一緒に旅する</u>✓ <u>信頼できる介助者</u>をつける
高い旅行代金	<ul style="list-style-type: none">✓ 団体旅行にする（介助者の旅費とサポート費を数名でシェアする）
介助者との相性	<ul style="list-style-type: none">✓ いつも接している介護士が同行
旅行会社の低収益と手間	<ul style="list-style-type: none">✓ 団体旅行にする✓ 施設が企画・手配を補助して手間を削減



団塊の世代による 旅行ニーズへの対応策

仮説 なぜ要介護者の旅行が普及しないのか？

介護事業および介護事業コンサルタントとしてわかったこと

調査 要介護高齢者に対する
旅行支援の在り方に関する調査研究事業

実証 旅行特化型通所事業および旅行介助士養成
活動状況

令和元年度 老人保健事業推進費等補助金
老人保健健康増進等事業

要介護高齢者に対する 旅行支援の在り方に関する調査研究事業



株式会社スターコンサルティンググループ
代表取締役 糠谷和弘

検討前の仮説

旅行の実現

ギャップ
= 旅行支援

バリアフリー化は進んでいるが、介護旅行の普及は不十分。**ギャップ**はいまだに**大きい**のではないかと

ギャップを埋めるのは

人的支援

心理的支援
(不安解消・動機づけ)

身体的支援
(身体介助)

高齢者
個々の
努力

要介護高齢者

家族の援助

限界がある

バリア
フリー化
コース配慮

国・自治体
観光地



旅行会社

設備・備品
による支援

事業者による
人的支援

交通/宿泊事業者



プレゼン

訪問調査

航空・電鉄・バス・観光

1. 観光事業者訪問実態調査

アンケート

1000施設

2. ホテル・旅館におけるサービス対応状況調査

訪問調査

介護旅行実施施設

3. 介護事業者訪問ヒアリング調査

分析・まとめ

要介護高齢者に対する
旅行支援の在り方検討会



1. 観光事業者訪問実態調査



配慮が必要な方への対応の工夫

- 専門部署設置 (H.I.S)
- マニュアルの活用と教育強化
による全店対応 (JTB)
- 配慮が行き届いたコース
- ニーズ聞き取りフォーム
- 行程のカスタマイズ (ゆったり)
- 個別のニーズに柔軟に対応
- 旅行介助人材の活用による個別支援



見えてきた課題

- 旅行会社の負担 (企画・手配) 介護施設をチャンネル化
- 集客のハードル (チャンネルがない)
- 少人数のため旅行代金が高額となる
(薄利多売はできない。参加障壁が高い)
- 収益化が難しい (2社とも赤字事業)
- 集合場所で初対面の不安 (サポート不安)
- 「旅行介助人材」 自社養成のハードル

発展仮説

- 介護施設との連携強化 (ターゲットを不特定から特定へ)
- 介護施設と団体旅行を企画 (リーズナブルに)
- 外部旅行介助人材との連携 (固定費から変動費へ)

外部との
連携

1. 観光事業者訪問実態調査



交通（航空・バス・電鉄）事業者

できていること

- 物的支援** バリアフリー設備
(多目的トイレ、車椅子など)
- 情報共有** ホームページなどでの情報発信
事前予約時の情報収集
(車椅子利用の有無など必要サポートの確認)
- 人的支援** 乗降時・移動サポート
(カウンター⇄機内など / 各事業者が運営する範囲内)

対応が難しいこと

- 物的支援** 隅々までの完全なバリアフリー
- 情報共有** 旅行者介助情報の
複数社間（バスと航空会社等）共有
- 人的支援** ピーク時の対応
交通機関の範囲外の移動
より重度の方の対応



人的支援の在り方

環境の壁をなくす

各社の運営範囲を超えた介助サービスの提供

例) タクシー→チェックインカウンターの移動
駅入り口→改札の移動

周囲の一般乗客が手助けしやすい環境づくり

情報の壁をなくす

旅行者に必要な介助情報の入手と共有

例) 電話、ホームページなどでの細かな情報入手の仕組み
ホームページでの検索のサポート

身体障害の壁をなくす

幅広い要介護状態に対応した介助サービス

例) 軽度から重度まで専門スキルを持った介助人材の同行

介助人材？

介助人材？

介助人材？

1. 観光事業者訪問実態調査



「バリアフリーに強い」と評判の宿泊事業者

富士レークホテル 京王プラザホテル ホテルヘリテージ 新橋 愛宕山東急REIホテル

実施している事項

- 共用部分のバリアフリー化
- レンタル車椅子等、介助補助具の整備
- バリアフリールームの整備（数は少ないが整備されている。一般客でも快適が重要）
- 食事形態変更など高齢者の食事への配慮
- 車椅子を押すなどの軽微な介助

実施困難な事項

- 介助内容など必要情報の事前収集
- 専門性が必要な介助
（専従の介助士は置けない）
- さらなるバリアフリー化のための設備投資
メインの顧客を要介護高齢者・障がい者に設定していないため改修等コストを投入しづらい

解決の方向性と人的支援の在り方

客室

- ☆ 機能性は高い（要介護の方が使いやすい）がデザイン性、快適性をそこなわない客室

機能性ばかりの追求NG



情報

- ☆ 要介護高齢者の介助に必要な情報の事前入手（聞き取りフォームの整備）

人的資源

- ☆ 地域の介護事業者とのタイアップするなど、要介護旅行者が必要な場面で、必要な量の介助を提供できる体制

入浴・食事
スポット介助



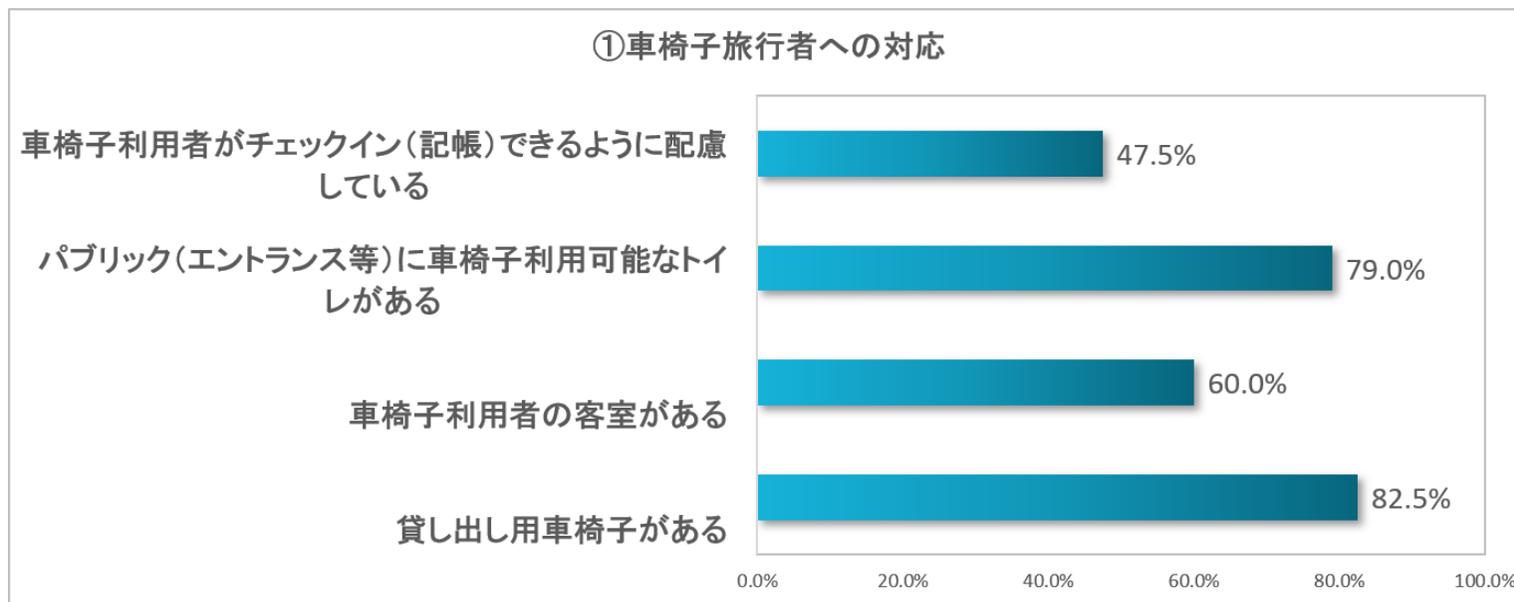
2. ホテル・旅館におけるサービス対応状況調査 ★STAR CONSULTING GROUP

要介護高齢者に対する 旅行支援の在り方に関する調査研究事業

アンケート結果

対応できている項目 **パブリック**

- 約8割のホテル・旅館が**パブリックに車椅子利用可能なトイレを設置**している
- 8割以上のホテル・旅館が**車椅子の貸し出し**をしている
- ただし、**車椅子利用者がチェックインできる**ホテル・旅館は47.5%にとどまる



結論

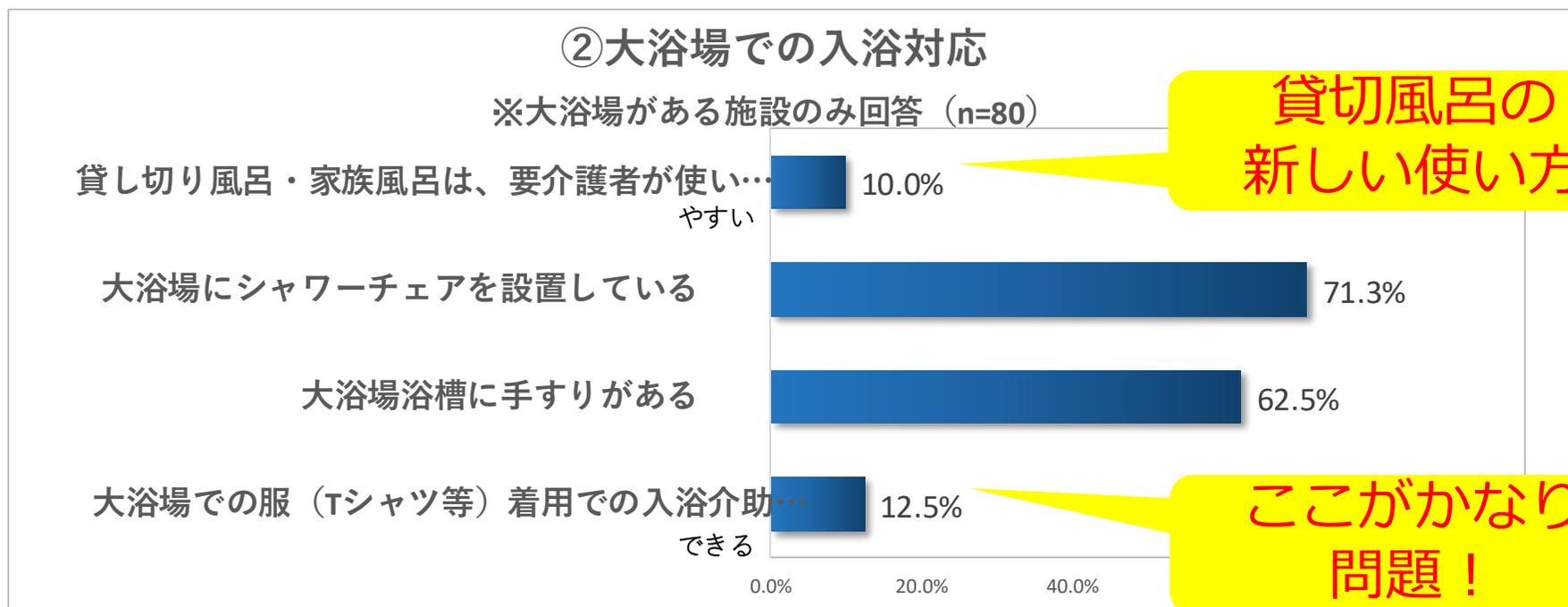
約8割の宿泊事業者が、**車椅子対応トイレの設置**や**車椅子貸し出し**をしている

2. ホテル・旅館におけるサービス対応状況調査

アンケート結果

対応できていない項目① 入浴

- 大浴場は、シャワーチェアや手すりを設置しているホテル・旅館の割合が比較的高い
- 一方で、Tシャツ等での入浴介助ができるホテル・旅館は12.5%にとどまる



結論 Tシャツでの入浴介助が可能な宿泊事業者が少ない

2. ホテル・旅館におけるサービス対応状況調査

要介護高齢者に対する 旅行支援の在り方に関する調査研究事業

アンケート結果

対応できていない項目② 食事

- **アレルギー・疾患に対応した料理提供**が可能な宿泊事業者は40%にとどまる
- **高齢者向けの食事**に関しては、対応している宿泊事業者はわずか13.5%

③食事対応

バイキングの場合、トレイカート（お盆を乗せる台車）がある

12.5%

アレルギー、疾患（糖尿病等）に対応した料理提供が可能である

40.0%

刻み（咀嚼の難しい方のために、料理を細かく刻む）対応をしている

28.5%

高齢者向けの料理がある

13.5%

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0%

ほとんど
対応できて
いない！

結論

食事については、ほとんどの宿泊事業者が**対応して**
いない

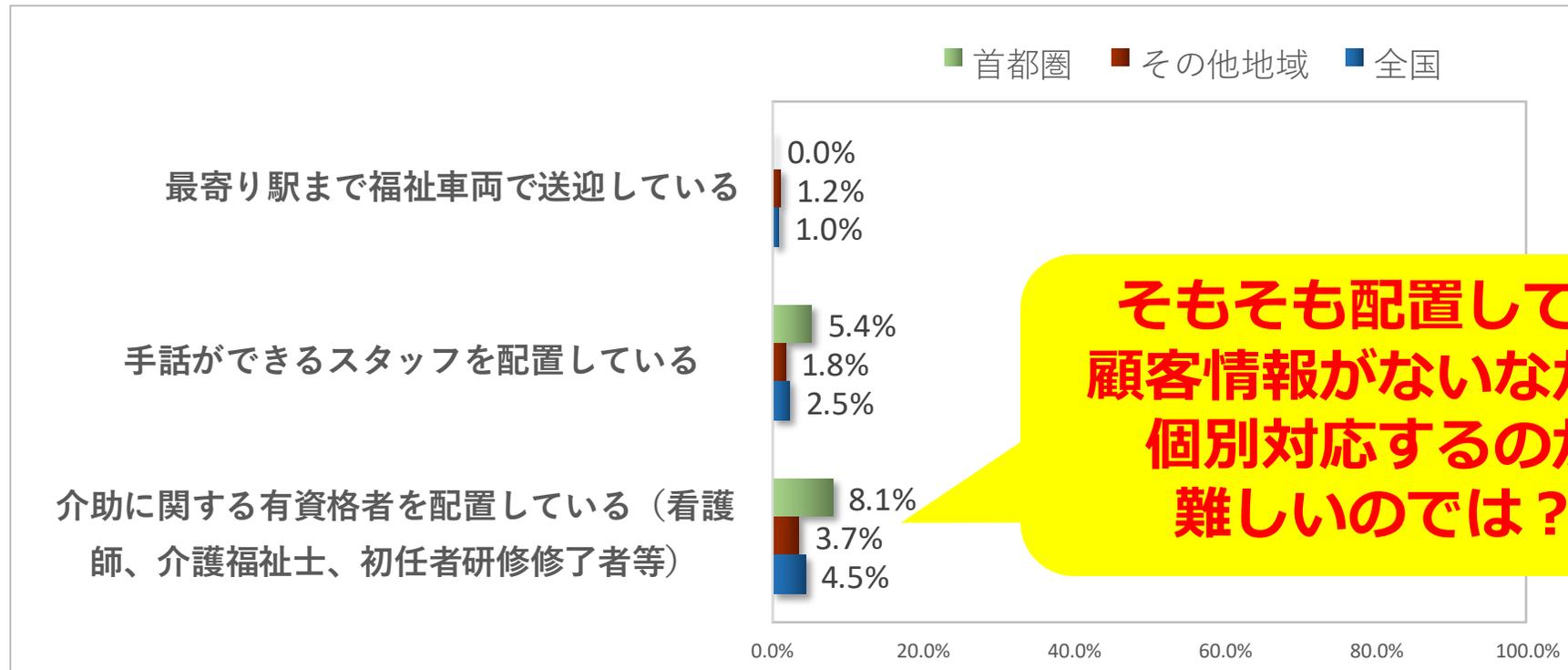
2. ホテル・旅館におけるサービス対応状況調査 ★STAR CONSULTING GROUP

要介護高齢者に対する 旅行支援の在り方に関する調査研究事業

アンケート結果

対応できていない項目③ サポート

□ 介助に関する有資格者を配置しているホテル・旅館はわずか**4.5%**にとどまる



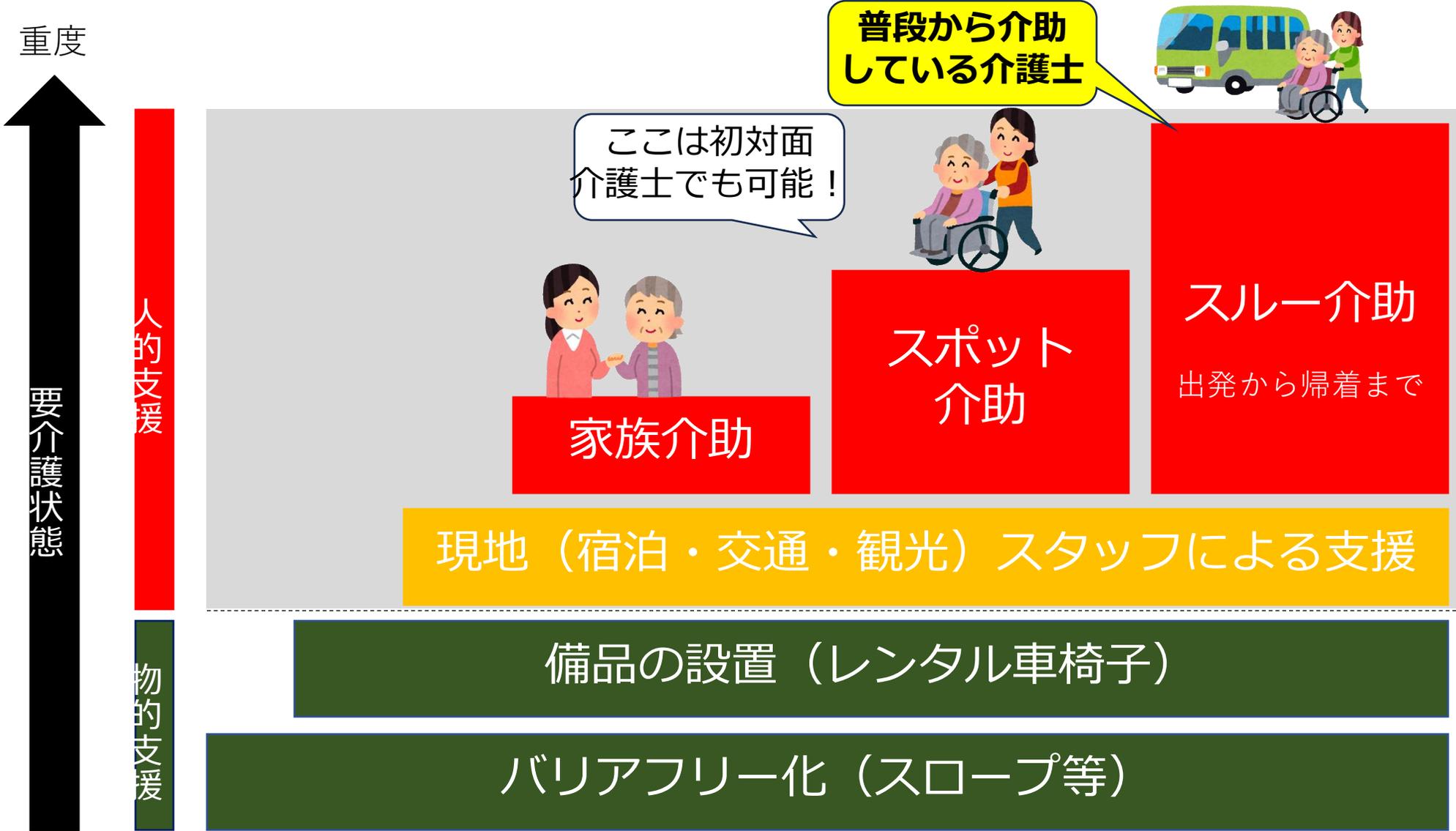
そもそも配置しても
顧客情報がないなかで
個別対応するのが
難しいのでは？

結論

有資格者を配置している宿泊事業者は**ほとんどない**

検討委員会による「旅行支援のあり方」の結論

要介護高齢者に対する 旅行支援の在り方に関する調査研究事業



検討委員会による「旅行支援のあり方」の結論



信頼できる人物による後押しが「遠慮」や「不安」を解消



家族・知人



介護士

介護士による旅行への関与

日常的状态把握

リハビリ・運動

旅行事業者等への正しい情報提供

コースづくりのための助言

適切な場面での適切な量の「物的支援」と「人的支援」

物的支援

- バリアフリー化
- 備品の整備
シャワーマット、後付けのスロープなど

人的支援

- 観光事業者の支援
- スポット介助
- スルー介助

次なる旅行の動機づけ

成功体験



一度、旅行をすると不安感が大きく解消されるというデータ（観光庁）

3. 介護事業者訪問ヒアリング調査

要介護高齢者に対する 旅行支援の在り方に関する調査研究事業



総合ケアサービス
株式会社創心會
株式会社創心會



社会福祉法人永寿荘



早稲田エルダリーヘルス事業団

株式会社早稲田エルダリーヘルス事業団



NPO法人日本アビリティーズ協会



株式会社エルダertime・ジャパン



3. 介護事業者訪問ヒアリング調査

共通する実施のポイント

- 日常的な施設のリハビリと連動で不安解消
- 3～5人に旅行サポート1人同行で旅費軽減
※1対1よりサポーターの旅費負担が小さい
- 信頼する介護士が声掛け・同行**
- 最終的には個人旅行・家族旅行に移行（自信がついたら）

旅行の
きっかけ

家族には
頼みたくない

共通する課題

- 旅行会社とのやりとり・準備が大きな負担
※旅行会社は要介護者に対して知識不足
- 車椅子など、1対1介助が必要な方の対応
- 施設営業日にスタッフを同行させられない

ポイントと 発展仮説

- 旅行を目標にしたリハビリの実施
- 旅行会社との連携
- 団体旅行による旅行機会創出
- 重度者への個別対応
- 介護士の動機づけと声掛け
- 施設営業日以外での実施**

ここが最も
多い課題

介護施設と介護士が 旅行介助に後ろ向きな理由

介護施設の事情



- 介護業界は未曾有の人手不足状態である（有効求人倍率4倍以上）
- 介護保険制度における「人員基準」があり、介護士が現場をぬけられない
- 旅行業法上、旅行で利益を得ることはできない
- 旅行日は、介護サービス費を受給できない

介護士の事情



- 旅行の専門性が不足（旅行経験が少ない人材が多い）
- 休日に旅行をサポートすると、ボランティアになる（利用者から直接、お金は受け取れない）
- 十分な対価を受け取る仕組みがない

介護保険上の
グレーゾーン

- バリアフリー（環境）だけでは、旅行は成立しない
- 人的支援（人手による動機づけとサポート）が不可欠**
- 簡単な介助ならスポットでいけるが、常時の歩行介助、入浴、食事にサポートが必要なら「スルー介助（全行程の介助）」が**必要**
- 家族には気を遣うから介助を頼みたくない（お互いにNG）
- 知らない人にはサポートされたくない（相性と信頼感）
- 加えて、身体機能、疾患に関する情報が仮に充実していたとしても、初対面で介助するのは資格者でも難しい
- しかし、**介護事業者の制度上の理由と介護士の専門性の不足と対価の受給方法の2点が課題で、同行は難しい**



団塊の世代による 旅行ニーズへの対応策

仮説 なぜ要介護者の旅行が普及しないのか？

介護事業および介護事業コンサルタントとしてわかったこと

調査 要介護高齢者に対する
旅行支援の在り方に関する調査研究事業

実証 旅行特化型通所事業および旅行介助士養成
活動状況

旅行に行けるカラダをつくる
デイサービスとは



旅行を目標に機能訓練して 身体機能と認知機能の向上をはかる 1日型のデイサービスセンター

千葉県内に定員60名以上の大規模デイサービスが5個所！



すべて旅行がコンセプト！



株式会社エルダーテイメント・ジャパン



(株)エルダーテイメント・ジャパン 展開エリア

保育

ていだまちキッズ
新検見川駅前



定員：19名
対象：0～2歳児
小規模保育事業



保育

ていだまちキッズ八千代高津

介護

リハビリスタジオていだ八千代高津



定員：19名
対象：0～2歳児
企業主導型保育所



介護

リハビリスタジオ
ていだ小仲台



介護

リハビリスタジオ
ていだ桜木

訪看

訪問看護ステーション
Tida美浜
サテライト 桜木



放デイ

ていだまちジュニア
幕張ベイタウン教室



定員：10名
対象：年長・小学生
放課後等デイサービス



保育

ていだまちキッズ検見川浜

児発

ていだまち倶楽部 検見川浜



定員：30名
対象：0～5歳児
認可保育園

定員10名
対象：0～5歳児
児童発達支援事業



訪看

訪問看護ステーションTida美浜

居宅

介護相談センター美浜



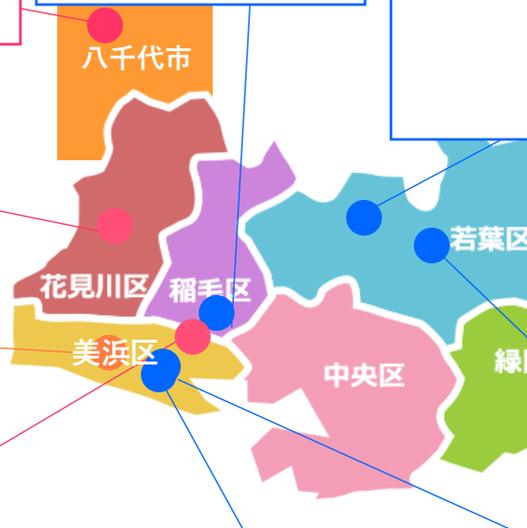
介護

リハビリリゾート
ていだ千城台



介護

リハビリスタジオ
ていだ真砂



旅行に行けるカラダをつくる
デイサービスとは

リハビリスタジオていーだ
リハビリサービスセンター

リハビリスタジオていーだ

Tide
Rehabilitation Studio
day service center



旅行に行けるカラダをつくる
デイサービスとは

Rehab for Travel 旅行に行けるカラダをつくる

看板にも表示！



旅行

を目標にする理由

旅行を目標にすれば

ほとんどの生活機能、身体機能、認知機能の獲得と
OOLの向上、および社会参加を目指すことができる！

旅行の流れ

旅行に行く
リハビリ

体調管理
旅行準備

旅行

旅行後の
家族・知人
との語らい

次の旅行
に向けた
リハビリ

目的と目標を持って
意欲的にリハに
取り組むことが大事

成功体験が
次の目標につながる

旅行

を目標にする理由

旅行を目標にすれば

ほとんどの生活機能、身体機能、認知機能の獲得と
OOLの向上、および社会参加を目指すことができる！

歩行

食事

入浴

トイレ

階段
昇降

買い物

社会参加

役割の
創出

交通機関
での移動

QOL
向上

お土産を買う

つらそうな同行者を
手助けする
孫に土産を買う

旅行に行けるカラダをつくる
デイサービスとは

運動ゾーン！

テーブルでも
活動します！



旅行に行けるカラダをつくる デイサービスとは

旅行の本が
200冊！

ドリップコーヒー
を楽しみながら
旅先に思いを馳せる

カフェコーナー
併設



旅行に行けるカラダをつくる デイサービスとは

リハビリマシン
機器が30以上！



旅行に行けるカラダをつくる
デイサービスとは

世界の
観光地の絵



旅行に行けるカラダをつくる デイサービスとは

旅情を感じる
富士山の絵

飛行機

新幹線

個室で入浴訓練

86才銭湯絵師



旅行に行けるカラダをつくる デイサービスとは



フラダンス、ヨガ、太極拳、タップダンス
など、楽しみながら運動できるメニュー

旅行に行けるカラダをつくる
デイサービスとは



現在、千葉市内に5箇所展開中！

旅行に行ける未来をつくる
3つの要素

旅行に行ける
リヨコリハ

特に歩行力
が大事

旅行
目標

成果発表
の機会

介助する
スタッフ

副業による
旅行介助

旅行に行ける未来をつくる
3つの要素

特に歩行力
が大事

旅行に行ける リヨコリハ

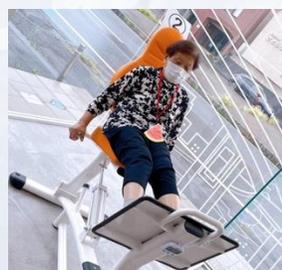
すべての活動が**旅行**を目的としたリハビリテーション



棒体操



立位訓練



30種類以上のマシン運動



フラダンス



チェアヨガ



太極拳



タップダンス

リョコ
リハ!

Rehab for Travel +

外出歩行

旅行で長い距離を
歩けるようになろう!

ここが
ポイント!!!



段差を歩く

長い距離を歩く

自分のペースで歩く



リョコ
リハ!

Rehab for Travel +

階段リハビリ

観光バスに乗れるように
階段昇降を練習！！

ここが
ポイント！！



手すりでバランスをとる

片足で立つ

膝を曲げて昇る・降りる



お風呂リハビリ

温泉旅館に泊まれるように
トレーニングしましょう！



ここが
ポイント!!!



着替える

足を上げてお風呂に入る

湯船の中で安定して座る



買い物リハビリ

お土産屋さんで買い物がで
きるように、スーパーで練
習しよう！

ここが
ポイント!!!



買いたいものをリストにする

お金の計算をする

カゴを押して歩く



旅行に行ける未来をつくる 3つの要素

突撃!! 隣の施設レク Vol.11

「旅行」を 目標にしたカラダづくり

目的を明確にして
リハビリを行いやる気をアップ!

千葉県内に4施設を展開するデイサービスセンター「リハビリスタジオていーだ」が掲げるのは、「旅行に行ける身体づくり」。実際に日帰り・宿泊旅行も企画し、多くの高齢者が積極的に参加して心から楽しんでいます。今回は、リハビリスタジオていーだというレクリエーションをつなげ、多彩な運動で身体づくりを叶える「ていーだ八千代高津」に潜入、どんなリハビリが行われているのかを探ってみました!



旅行に行ける3つの要素って?

- ✓ 日常動作がスムーズに行えるよう練習すべし
- ✓ 身体の動かし方を思い出すべし
- ✓ リハビリを積み重ね不安感を軽減すべし



乗降の練習は、バスやエレベーターの乗降が容易になるよう、乗降のトレーニング器材を設置。

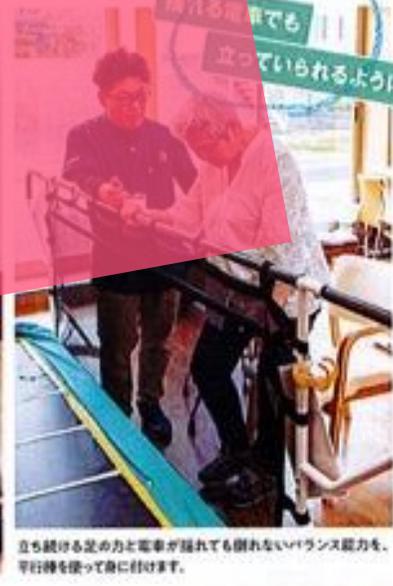
「背力UPも」

腰を起す→起き上がり→立ち上りの連続動作を練習します。膝肘や手足の使い方を習得。

リヨコリハは
テレビ・雑誌などで
取材されています!



高齢者が安全に使いやすい油圧リハビリマシンも採用。足踏車など、各部位の筋力向上を図ります。



立ち続ける足力と電車が揺れても倒れないバランス能力を、平行棒を使って身に付けます。

実際に国内・海外の旅行を企画!

旅行の思い出は
冊子にして利用者に配布

次ページからはていーだ八千代高津の全貌に迫ります!

リハビリスタジオ
ていーだ八千代高津

旅行に行ける身体を目指すリハビリスタジオ「ていーだ」が、かつと事業所内併設利用を始めた特別施設「ていーだまほやか」の紹介です。

千葉県八千代市大和田新田300-4
TEL: 0474-469-0291

旅行に行きたい気持ちこそリハビリでサポート!

多量なリハビリを施される「リハビリスタジオ」ですが、利用者が一人ひとりが主体的に活動し、楽しみながらリハビリに取り組む姿勢を大切にしています。それは、ひとりで、旅行に行きたい、という目標があるから、日帰り・宿泊・海外や沖縄などの遠出と年々向学している旅行は、毎回の集客が目的ではなく、大人気、日本とかけ離れた風景に多く利用者が感動し、充実の旅行で旅先を楽しみます。旅行に気軽に行きたい、という夢を、成功体験になり、「もっとこんなことをしたい」「次は海外に行きたい」と積極的に求める姿勢へと変化。具体的な目標を立ててトレーニングを行うから、向上心も高まり、なんとこれまで2人の利用者からリハビリから卒業したほどです。

積極的にリハビリに取り組む利用者へのサポートももちろん、それが施設全体の活気にもつながる。いい循環ができています。と、おぼろげに感じました。

旅行に行けるカラダをつくる
3つの要素

成果発表
の機会

旅行目標

保険外で
実施

旅行があるから頑張れる！団体旅行だから励ましあえる！



台湾



沖縄



佐原



スカイツリー



築地



鎌倉



河口湖



鬼怒川温泉

団体



海外

100% TRAVEL
tid

ゆったりたっぷり

台北3日間

5月(8日(土)~)0日(日)



リハビリスタジオにていーた



個人



旅行に行ける未来をつくる 3つの要素

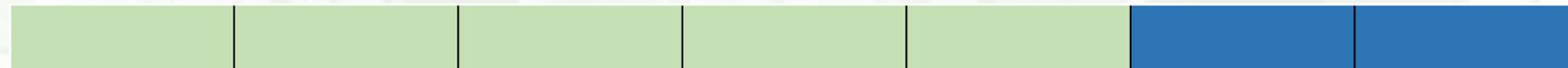
副業による 旅行介助

介護保険上
常勤換算（週40時間）の
勤務が必要

①会社の業務として実施

介護施設で勤務

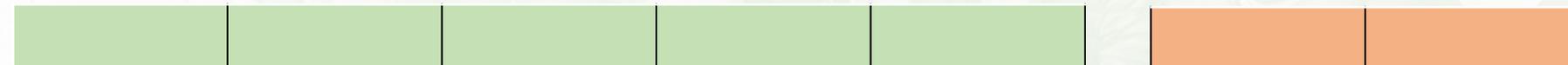
旅行に同行



②プライベートの時間に実施

介護施設で勤務

旅行に同行



- 週40時間以上の勤務になってしまう
- 公休日に出勤になるため超過勤務手当が発生
- 本業のシフト（配置）にも影響する

③「副業」として「添乗員派遣会社」から派遣される方法で実施

介護施設で勤務

旅行に同行



- お客さんから直接、お金を受け取るのはリスクが高い

副業を
OKに！

- 添乗員派遣会社から給与を受け取る
- 本業のシフトには影響しない

旅行介助士[®]

介護旅行をサポートする専門職の養成



一般社団法人
日本介護旅行
サポートーズ協会

介護事業者団体



一般社団法人 **日本介護旅行**
サポーターズ協会



大手旅行代理店

Jtb
Communication
Design



最大手旅行専門学校

トラベル&コンダクター カレッジ

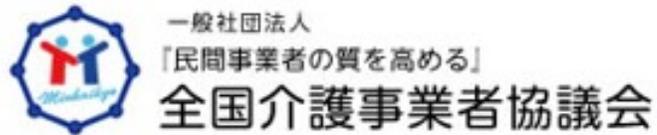


添乗員派遣会社

AMUSE

後援団体・企業様

(敬称略)



NPO法人全国在宅リハビリテーションを考える会



その他たくさんのご後援、ありがとうございます

3日間で取得できる短期集中講座

1日目

- ① 旅行業法令・約款
- ② 国内旅行実務①

2日目

- ① 国内旅行実務②
 - ② 旅程管理者試験
 - ③ バス添乗実務
- バス内アナウンス(要介護者に対する挨拶、行程案内、注意点アナウンスの方法)
 - 観光地でのサポート方法(大人数を少人数で見守るポイント等)
 - 土産店などでのサポート方法(車椅子での土産購入のポイント等)

3日目

- ① 介護旅行の企画(個人・団体)
- ② 旅行の手配(旅行代理店、ホテルなどへの依頼方法)
- ③ 下見のポイント
- ④ 旅行の準備
- ⑤ 旅行者の状態把握
- ⑥ 旅行中のサポート
- ⑦ 旅行後の業務



旅程管理主任者

旅行介助士

ダブルで取得!

旅行に行ける未来をつくる
3つの要素

副業による
旅行介助

介助するスタッフ

全スタッフが**旅行介助士**を取得！ **副業**で旅行に参加！

契約
支払い



旅行会社

日当
支払い

個人旅行
お出かけ
障害者の旅行
修学旅行
サポート！



1回平均15000円

介護スタッフは「**公休日**」に旅行参加
旅行会社から直接、**日当**を支払い



団塊の世代の旅行頻度の維持拡大には 「介護士」の存在が不可欠！

仮説 なぜ要介護者の旅行が普及しないのか？

介護事業および介護事業コンサルタントとしてわかったこと

調査 要介護高齢者に対する
旅行支援の在り方に関する調査研究事業

実証 旅行特化型通所事業および旅行介助士養成
活動状況

A woman in a blue denim jacket is pushing a wheelchair with an elderly woman in a light blue jacket through a field of colorful tulips. The woman in the wheelchair is holding a cane. The scene is bright and sunny, with a large tree on the left and a path in the background.

介護職の手で
介護事業者の力で
団塊の世代が旅行に行ける
未来をつくる